

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

変わる社会 稲作と鉄器の渡来 寒冷化の影響で大陸から南下した渡来人は、稲作と鉄器を持ち込んだ。既に農耕民と漁労民が存在した縄文後期に、大きな変化をもたらした。採取にも変化があり、持ち込まれた稲作と鉄器は、栽培という「生産」と鉄器による「生産性」を兼ね備えており、漁労民により海路で日本中に広まったと考えられる。これはいわば渡りに船の状況にあったのだろう。

ところが、これを「持つ人と持たない人」が生じることとなる。稲作の方法や鋤（すき）や鍬の農具である。これを持つか持たないでは大きな違いが出来る。これを持つ人は持たない人に貸し与える。つまり「**レンタル業**」の始まりである。おそらく収穫の何割かを戴くのである。

借りる側と貸す側

これらの行為の始まりは、結果として「借りる側は労働」であり、「貸す側は非労働」という形が出来る。しいては、この労働生産性は食料の余剰を生み、流通が始まり「生産地」と「非生産地」に2分される。この非生産地は流通であり、「町の形成」となる。こうなると人口も爆発的に増大する。

このように大きな変化がもたらされると、その対処行動は「順応」「適応」「対応」となる。「順応」変化の流れにのるので借りる側の労働者に。「適応」は非労働の流通業者。「対応」は非労働の親分となる。変化による自由なフィールドが与えられると、人間は様々な対処をして新たな形を作っていく。それは明治時代に始まった「移民」や「北海道開拓民」の行動も同様である。

リーダーの出現

弥生時代に入り、「原野」は「野良」という耕作地になり、この耕作地は開拓せねばならない。いつの世でもそうであるが、一人で開拓するには限界があるので、ある程度の人数が集まる。そうすると、「指示する人」と「指示される人」が出来る。指示する人には「リーダーシップ」が必要であり、「指示される人」は、その指示に従う方が良いか悪いかであり、余計なことを考えないで済む。親分頼みか。

レンタル業も進んで成果が上がると、単に流通にとどまらず備蓄も出来るようになる。こうなると、この備蓄を狙って盗みや強奪の可能性が生じる。となると持つ者は、その防御や防衛をせねばならない。そこで登場するのが「ガードマン」である。これが後に「防人」となり、国土防衛に当たる「兵士」、更には「武士」に変化していく。

見立て

このような流れはこうして出来たのであろうというのは、「見立て」であり、単に推理、妄想ではない。何故なら後の世でも同様に、このような流れで形成されることが多いことによる。

家康ゆかりの地

⑤鴨江寺（鴨江観音）

徳川家康が、長野の善光寺如来を置いたとされるお寺。慶長13年（1608年）火災で観音堂を失うが、元和4年（1616年）家康が観音堂を再建。

同窓会だより」掲載記事募集

八幡中学校同窓会事務局 代表 白井 鉄男

連絡先: 〒430-0928

浜松市中区板屋町612-402

FAX: (053) 489-6391

ironman29@hotmail.co.jp



「同窓会だより」は、八幡中学ホームページトップの「特色ある活動」から入ると、スマホやパソコンからでも見られます。皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。「同窓会だより」は毎月発行。